

けることとなります。人の心も同じです。隠し事ややましいことがあると、心の門を開くわけにはいかなくなります。そうして心を閉ざしていると、誰も寄り付かずに人とのご縁ができません。ですから、「開門福寿多」は、単に「門戸を開いて、福を呼び込みましょう」という教えではありません。家でも心でも、入口と中をきちんと整えて、いつでも門を開いておけるようにしておくことが大切である、という意味を含んでいます。

会社やお店も同じです。入口が汚れていたら、それだけでも負のオーラが出てしまいそうです。入口、トイレなど、運気を呼び込むところは特にきれいな状態を心がけたいものです。そして、そこにいる人の「気」といいますか「雰囲気」というものがキラキラ輝いている会社やお店は繁盛しています。

「繁栄の法則」の著者である北川八郎先生は「そこに住む人や働く人が、お互いに仲良く、和気あいあいとしていると、その建物の入り口が笑い、光を放って、人を呼び寄せる」と言っています。自分自身に後ろめたいことがあったり、あまりいいと思わない商品を薦めていたり、スタッフ同士の仲がグチャグチャだったり、不平不満で溢れていたなら、どんなに見た目はきれいでも人は寄り付かなくなります。そして、次第に掃除も行き届かなくなるでしょう。

人は感じる生き物です。どう取りつくろっても、なんとなく怪しいというのは勘づきます。自分に後ろめたいことがあったのなら、懺悔するか反省するか解決するかして、そのうえで正々堂々と勝負すればいいし、スタッフ同士の仲が悪いのであれば、仲良くなる努力をすればいい。そうやって受け入れる体制が整ったのなら「開門福寿多」となります。

「たまたま仲が良いチームはできません。仲良くすると決めて、仲良くするための行動をし、それを忘れない努力が必要です」

創業51年目がスタートしました。チーム鎌田として会社も自分の心もきちんと整え、「開門福寿多」となるようにしましょう。

## 4月度安全大会

■山下健二部長

安全

3月は大半の現場が工期を終え、無事に終了しました。現場の関係者は、本当にご苦労様でした。

◎今月の安全重点目標:



## 51年目のスタート、さらなる人間磨きを!

鎌田善政社長

おかげさまで、4月2日をもって鎌田グループは創業50周年を迎えるこ



とができました。昨日グループ社員を中心とした記念式典及び祝賀会を執り行い、次の50年に向け、益々精進していかなければならないと決意を新たにすることでした。

国分庁舎の増築工事が2月末をもって無事完了し、発注者からも高い評価を得ることができました。現場関係者の皆さんにおかれましては、本当にご苦労様でした。高い評価を頂く為には何より信用を得なければなりません。その為には日頃から申しております通り、複写ハガキを通して気遣いや心遣いの心を磨き、感謝の心を磨くことが大切です。1日わずか5分、1枚のハガキを書き続けるということは簡単なようでなかなか難しいものでありますが、それをやりきるかどうかでは大きな差が生まれます。

ある方から聞いた話ですが、紫尾山の麓にある温泉では地元の方々は一入残らず風呂桶と腰掛を綺麗に洗って並べておくそうです。感心して地元の方に尋ねると「人の嫌がることを残さないようにしているのです。当たり前のことですよ」と簡単に答えが返ってきたそうです。日本中探してもこんな素晴らしい地域はなかなかありません。

創業51年目がスタートしました。益々人様に喜んで頂ける人間を目指し、おかげさまの心で自ら汗を流して頑張ってください。

## 禅語「開門福寿多」 (門を開けば福寿多し)

鎌田安典専務

たとえば家に人を迎えるとき、部屋を片付けて掃除し、庭を掃き清め、きれいにします。家の中が散らかっていて、庭も草もぼうぼうでは、恥ずかしくて客人に門を開くことはできません。荒れ放題でもいいから門を開けておけばよいと思うかもしれませんが、そんな家に入りたくて思うでしょうか?門は開けていても、やはり人を遠ざ

